

## みんなで取り組もう 私たちができること ～市民から市民へのメッセージ～(案)

## ＜総合計画の政策体系とメッセージの掲載箇所(イメージ)＞

1層(基本政策)		2層(政策)		メッセ ージ
1	生命を守り生き生きと暮らすこと ができるまちづくり	1-1	災害から生命を守る	③
		1-2	安心して歩ける安全なまちをつくる	④
		1-3	水の安定した供給・循環を支える	
		1-4	誰もが安心して暮らせる地域のつながり・しくみをつくる	①、⑤
		1-5	確かな暮らしを支える	
		1-6	病気や怪我から市民の健康と安全を守る	
2	子どもを安心して育てることの できるふるさとづくり	2-1	安心して子育てできる環境づくり	②
		2-2	未来を担う人材を育成する	
		2-3	生涯を通じて学び成長する	
3	市民生活を豊かにする環境づ くり	3-1	環境に配慮したしくみをつくる	
		3-2	地域環境を守る	
		3-3	緑と水の豊かな環境をつくりだす	
4	活力と魅力あふれる力強い都 市づくり	4-1	川崎の発展を支える産業の振興	
		4-2	新たな産業を生み出す	
		4-3	生き生きと働き続けられる環境づくり	
		4-4	ICT(情報通信技術)の戦略的な活用	
		4-5	臨海部の活性化を推進する	
		4-6	魅力ある都市拠点を整備する	
		4-7	良好な都市環境の形成を推進する	
		4-8	総合的な交通体系を構築する	
		4-9	スポーツ・文化芸術を振興する	
		4-10	戦略的なシティプロモーション	⑥
5	誰もが生きがいを持てる市民 自治の地域づくり	5-1	参加と協働により市民自治を推進する	
		5-2	人権を尊重し共に生きる社会をつくる	

※政策体系は今後、変更する可能性があります。

# みんなで取り組もう 私たちができること（案）

## ～ 市民から市民へのメッセージ①～

「超高齢社会においても生き生きと暮らし続けることができる地域の  
支え合いのために」

### 背景

10年後の平成37(2025)年には団塊の世代が75歳を超え、川崎市民の3人に1人が高齢者となります。超高齢社会を迎えて、成熟化した社会の中で誰もが生きがいを持って幸せに暮らしていくためには、地域でお互い助け合うしくみが必要となります。

私たち市民委員は、「市民検討会議」での議論を踏まえ、川崎市民のみなさんに以下のご提案をします。

### メッセージ

- 地域の高齢世代同士や世代間で支え合うためには、支援が必要になる前から近所の人たちとの顔の見える人間関係をつくるのが大切です。挨拶や声掛けから始めて、地域に知り合いや友達をつくりましょう。
- 町内会などの地域活動や社会貢献活動など、地域にはシニア世代の「出番」がたくさんあります。高齢者になっても元気なうちは、これまで培ってきたスキルや経験を活かして、「地域の担い手」になりましょう。
- シニア世代には仕事や子育てで培った知識・経験があります。こども・若者も含めた多世代交流を通じて、地域で次世代を育成し、世代間交流による支え合いを大切にしましょう。
- これから高齢者になる人は、いつまでも元気で暮らすために、外出する機会を増やして積極的に人と交流しましょう。また、できるだけ徒歩で移動するなど、生活の中に適度な運動を取り入れましょう。



# みんなで取り組もう 私たちができること（案）

## ～ 市民から市民へのメッセージ②～

### 「次代を担う子どもを安心して育てることのできるまちづくり」

#### 背景

全国的に少子化が進展する中で、川崎市の出生数は近年横ばい傾向にあるものの合計特殊出生率は国の平均より低い水準にとどまっています。子どもを産み育てやすいまちをつくるためには、保育サービスの拡充などが求められており、核家族化や地域のつながりの希薄化による子育ての孤立感・負担感の高まりなど、多くの課題に対応するためには、行政による直接的なサービスの提供に加えて、地域で子育てを支えていくしくみづくりが必要です。

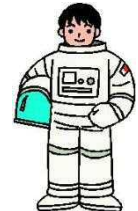
私たち市民委員は、「市民検討会議」での議論を踏まえ、川崎市民のみなさんに以下のご提案をします。

#### メッセージ

- 家庭や地域でさまざまな人材が関わりながら、子どもを孤立させないことが大切です。「伴走者」として、子どもの成長（学習・自尊心・好奇心・集中力・コミュニケーション力・自立など）に地域でしっかり寄り添いましょう。
- 気軽に相談できる子育ての先輩のネットワークをつくり、みんなで子育て世代をサポートしましょう。
- 必要な行政サービスについて、市民と行政ともに学び合いましょう。
- 子どもの頃から、家庭や地域でさまざまな職業の達人と話すなどの実体験や情報を与え、子どもに働く喜びや価値観をリアルに感じてもらいましょう。



窓口



川崎市総合計画市民検討会議より

# みんなで取り組もう 私たちができること（案） ～ 市民から市民へのメッセージ③～

## 「災害から生命を守る地域の助け合い」

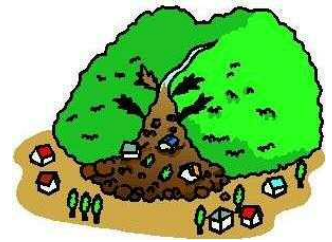
### 背景

今後30年間に震度6弱以上の首都直下型地震が発生する可能性が70%程度とされているなど、大規模な自然災害に備えることが重要な課題となっています。阪神・淡路大震災において、救助された人の97%が友人・家族・隣人によって命を救われており、市民一人ひとりの災害への備えと地域コミュニティにおける防災の取組など、自助・共助による「地域防災力の向上」が必要不可欠です。

私たち市民委員は、「市民検討会議」での議論を踏まえ、川崎市民のみなさんに以下のご提案をします。

### メッセージ

- 各家庭で防災意識を高め、家屋の耐震性の確認や防災グッズなど必要な物資の準備、避難場所やハザードマップの確認など、日頃から家庭内でできる災害に対する備えをしておきましょう。
- 実際に大きな災害が発生した際に、家族で助け合って危機に対処するために、連絡の仕方や集合場所などを決めておきましょう。
- 地域の住民同士で助け合うことで災害による被害を最小限にするため、地域の人々で話し合いや訓練を通じて災害時の体制づくりをするとともに、地域のどこにどのような危険があるか、支援が必要な人がどこにいるかなど、必要な情報を共有しましょう。
- 災害対策にはすべての世代が参加すべきですが、地域の防災活動への参加者は高齢者の比率が高いため、中学生、高校生を含む若い世代は積極的に参加するようにしましょう。



川崎市総合計画市民検討会議より

# みんなで取り組もう 私たちができること（案）

## ～ 市民から市民へのメッセージ④～

### 「快適で利便性が高く、暮らしやすいまちづくり」

#### 背景

超高齢社会に向けて、これまで以上に安全で快適な交通環境の整備が求められており、鉄道・バスなどの公共交通ネットワークの整備や、歩行者・自転車にとっての安全性・快適性の向上が重要な課題となっています。中でも自転車については、自転車通行帯の整備など、行政の取組に加えて、市民一人ひとりがルール・マナーを守り、適正利用に努める必要があります。

私たち市民委員は、「市民検討会議」での議論を踏まえ、川崎市民のみなさんに以下のご提案をします。

#### メッセージ

- 自転車はエコで、お金もかからない便利な乗り物ですが、ルールやマナーを無視した乗り方は重大な事故につながります。ルールを正しく理解し、家庭でもしっかり教えましょう。

#### 知っていますか？ 自転車の交通ルール

- ✓ 暗くなる前にライトをつけましょう。
- ✓ 自転車は、原則として車道左側通行です。
- ✓ 歩道上は歩行者優先。自転車は徐行するのがルールです。
- ✓ 自転車は縦一列走行です。横に並んで通行することはできません。
- ✓ 二人乗り、飲酒運転、傘さし運転は禁止です。
- ✓ 乗用中の携帯電話・イヤホン等の利用は禁止です。
- ✓ 子どもにはヘルメットを着用させましょう。（\*）
- ✓ 自転車は道路交通法で軽車両に位置付けられており、違反者には罰金等が科せられます。（\*は努力義務）



小冊子「自転車もハンドル握ればドライバー」（川崎市交通安全対策協議会・川崎市）より

- 自転車を路上や駅前などに放置すると、歩行者や車両の通行の障害となったり、救急・消防活動に支障をきたすとともに、盗難の誘発や美観の悪化にもつながります。自転車を放置せず、駐輪場を利用することを市民のプライドにしましょう。また、自転車は必ず防犯登録し、駐輪するときは盗難防止のために二重施錠しましょう。



川崎市総合計画市民検討会議より

# みんなで取り組もう 私たちができること（案） ～ 市民から市民へのメッセージ⑤～

## 「快適で利便性が高く、暮らしやすいまちづくり」

### 背景

川崎市においても、家族構成人数が多い子育て世帯が狭い住宅に、単身もしくは夫婦世帯の高齢者が広い住宅に住むという、いわゆるミスマッチが生じていると言われています。豊かな暮らしを実現するためには、年齢を重ねるごとに変化していくライフスタイルや、体の状態に合わせて、住まいを選ぶことも重要です。

私たち市民委員は、「市民検討会議」での議論を踏まえ、川崎市民のみなさんに以下のご提案をします。

### メッセージ

- いつまでも住み慣れた家で暮らしたいという方も多いと思います。しかし、子どもの独立で夫婦2人だけで広い家を持て余すようになった、階段や段差の昇り降りが辛くなった、家が老朽化してきた、といったことを感じたら、ライフステージに合わせた住み替えを考えてもいいかもしれません。  
よりポジティブにシニアライフを送るためには、持ち家にこだわらずに、バリアフリーで、もう少しコンパクトで、交通利便性の良いところへ住み替えるという選択肢もあります。
- 地域で孤立してしまうことがないように、近所に友達をつくったり、地域の集まりに参加してみるなど、近くに住む人とのゆるやかなネットワークを大切にしましょう。
- 高齢になったら、親子での「同居」が難しくても、できれば「近居」することで、孫の成長を見守りながら、安心した生活を送りましょう。



# みんなで取り組もう 私たちができること（案）

## ～ 市民から市民へのメッセージ⑥ ～

### 「文化・スポーツなど川崎の魅力を活かしたシティプロモーション」

#### 背景

川崎市は、細長い市域という地理的条件や市民の転出入が多い実態など市民の一体感の醸成が難しく、昼間は東京・横浜などの隣接する都市で働く人も多いことから地域への帰属意識が形成されづらいとされています。川崎の都市ブランドを強化し、「住みたいまち」というイメージを確立するためには、行政による情報発信に加えて、市民の「川崎への愛着・誇り（シビックプライド）」を高め、地域社会への参画により地域資源・魅力を向上させ、多くの市民により魅力の発信が行われることが重要です。

私たち市民委員は、「市民検討会議」での議論を踏まえ、川崎市民のみなさんに以下のご提案をします。

#### メッセージ

- 川崎の魅力を再発見し、川崎のことをもっと良く知るためには、市民一人ひとりが情報を「受け取る力」を持つことが大切です。市政だより、市のホームページなどで、様々な情報が発信されているので、関心を持って見てみましょう。
- 川崎には、ミュージア川崎シンフォニーホールや音楽大学、川崎フロンターレをはじめとした多くのプロスポーツチーム、生田緑地をはじめとする緑など、数多くの地域資源があります。これらの資源を活かして、文化芸術、スポーツ、緑化・美化などの地域活動といったさまざまな分野で市民が活発に活動することが、川崎の魅力を高めることにつながります。このようなイベントや活動に、積極的に参加してみましょう。
- 市民一人ひとりが、川崎の良いところや優れたところを積極的にPRすることで、一人でも多くの人に川崎の魅力を知ってもらうことが大切です。SNSによる情報発信や、知人を招いて市内を案内するといった「人と人とのつながり」を通じた口コミのPRなど、様々な方法で川崎の魅力を伝えましょう。

